

令和3年度 社会福祉法人 誠真会 事業報告

本年度も新型コロナウイルス感染完全収束には至らず「グループホームながしま」及び「キッズプラザながしま」の業務運営について少なからず影響を受けました。「グループホームながしま」では、施設内での感染症対策を徹底する中、ご家族と入居者との条件付き面会の再開、写真や職員のコメントを通じたご家族とのコミュニケーション機会の創出に可能な限り注力してまいりました。また12月には「キッズプラザながしま」「スパながしま」と合同交流会を実施、キッズ園児とのふれあいの機会を設けました。職員に対しては、外部研修参加ができないため、佐藤病院グループ内でのリモート研修や職場勉強会を実施、介護技能のスキルアップ機会充実を図っています。

介護保険事業については、業務面で佐藤病院グループ施設との連携強化に努め、グループホームの稼働率は95.8%、前年比0.7ポイント低下にとどめました。介護サービスの質的向上に努め、介護保険事業収益は127.7百万円、前年比0.8百万円の増加、最終的に経常増減差額は3.5百万円となり、前年比0.6百万円と若干の増加見込です。

次に、企業主導型保育事業「キッズプラザながしま」についても、施設内外での感染症対策を徹底する中、4月に体操教室発表会、5～7月に園外保育、10月に遠足、芋掘り、ハロウィン、12月に「スパながしま」「グループホームながしま」との合同交流会、3月のお別れ遠足とウィズコロナ下での事業運営をより充実すべく努め、認可外保育事業収益は62.2百万円、前年比7.1百万円の増加、一昨年の事業収益63.4百万円近辺まで回復しました。最終的に経常増減差額は13.8百万円、前年比8.0百万円の増加見込です。

本年度の当法人全体の事業活動における収益状況は、概ね順調に推移しています。

社会福祉活動の現場を支える介護職、保育職の人材確保は、依然として当業界、また当グループにおける大きな課題であります。収益環境も好転の兆しが見えてきており、引き続き、次年度も、処遇改善加算等による賃金水準の底上げ、職場における物理的、心理的両面での労働環境整備、改善に一層注力し、質の高い介護サービスの提供に努めてまいります。施設利用者様、そこに働く人々の幸福度を高めることで地域社会全体の福祉向上に努める所存です。

本年度も、一部の地域交流イベントや行事等が自粛基調であり、当法人の地域貢献活動も充分とは言えない状況にありました。地域社会の課題として、健康維持管理、介護予防、生きがいづくり等、地域での支え合いの仕組みづくりはますます重要度を増しており、引き続き積極的に地域貢献活動に取り組み、社会福祉活動の発展に努めてまいります。

以上